

第10回 食の安全・安心の確保に関する条例検討会事項書

平成20年4月8日

13:00～15:00

議事堂601特別委員会室

1 条例案（素案）の説明（座長）

2 素案についての意見交換

3 委員協議

今後のスケジュールについて

三重県食の安全・安心の確保に関する条例案（素案）

目次

前文

第一章 総則（第一条 - 第九条）

第二章 基本方針（第十条）

第三章 基本的施策

第一節 安全・安心の推進（第十一条 - 第十八条）

第二節 県民の参加等（第十九条 - 第二十二条）

第四章 安全・安心の確保

第一節 出荷・販売の禁止（第二十三条）

第二節 自主回収の報告（第二十四条・第二十五条）

第五章 立入調査及び措置勧告（第二十六条・第二十七条）

第六章 三重県食の安全・安心確保のための検討会議（第二十八条・第二十九条）

第七章 雑則（第三十条）

附則

本県は、^{いにしえ}古には、^{うましくに}美し国、^{みけつくに}御食国と称され、豊かな食料を生み出した地であった。我々は、~~現在においても、また、将来にわたってもかくありたいと考える。~~

食は、~~人々の日々の糧であるが、~~我々が日々の生活を送る上で基本となるものであり、健康で豊かな生活を送るためにはその安全と安心が確保されなければならない。

~~現在、我々は、近年、製造技術の高度化や輸入食品等の増加等により、我々の食生活を取り巻く環境は大きく変化しており、食に対する県民の関心が高まっているところである。経済の発展や科学技術の発達によって豊かな食生活を享受できるようになったが、その一方で、国際的な物流の拡大や新たな食品製造技術の開発は、環境汚染物質による食品汚染の可能性、食品への有害物質の残留の可能性など、新たな不安を生じさせていることも否めない。~~

国においては、~~食品の安全・安心性及び信頼性の確保のを確保するために多くの法律が制定されているが、~~本県のほか、各地において食に関する様々な問題が発生したことから、~~本県において、~~食の安全・安心の確保に関する県民の要請は一段と強まってきている。~~品の安全性及び信頼性を損なう事件が発生し、消費者である県民に、食に対する不安感や不信感を抱かせた。~~

このような状況において、~~本県における食の安全・安心品の安全性及び信頼性を確保していくことは、本県が取り組むべき喫緊の課題であるが、その取組に当たっては、食品等の監視、食品関連事業者への指導の強化等を行うのみならず、地産地消等の推進を通じ食品関連事業者と県民との間の信頼関係を構築し、とともに、安全・安心な県産食品の供給の拡大に寄与するものである。~~を
図っていくことが重要である。

ここに、食の安全・安心の確保に関する基本理念を明らかにしてその方向性を示し、食の安全・安心の確保に関する施策を総合的に推進するため、この条例を制定する。

第一章 総則

(目的)

第一条 この条例は、県民が豊かな食生活を通じて健康に暮らしていくためには食品の安全・~~安心性及び信頼性~~(以下「~~食の安全・安心~~」という。)を確保することが重要であることにかんがみ、食の安全・安心の確保に関し、基本理念を定め、並びに県及び食品関連事業者の責務並びに県民の役割を明らかにするとともに、施策の策定に係る基本的な方針を定めることにより、食の安全・安心の確保に関する施策を総合的に推進し、もって県民の健康の保護並びに県民に信頼される安全・安心な食品の供給及び消費の拡大に寄与することを目的とする。

(定義)

第二条 この条例において、次の各号に掲げる~~おける~~用語の意義は、当該各号に定めるところによる~~次のとおりとする。~~

一 食の安全・安心 食品の安全性及び食品に対する県民の信頼をいう。

二 食品 すべての飲食物(薬事法(昭和三十五年法律第百四十五号)に規定する医薬品及び医薬部外品を除く。)をいう。

三 食品等 食品並びに添加物(食品衛生法(昭和二十二年法律第二百三十三号)第四条第二項に規定する添加物をいう。)器具(同条第四項に規定する器具をいう。)容器包装(同条第五項に規定する容器包装をいう。)及び食品の原料又は材料として使用される農林水産物をいう。

四 食品関連事業者 食品等又は肥料、農薬、飼料、飼料添加物、動物用の医薬品その他食品の安全性に影響を及ぼすおそれがある農林漁業の生産資材の生産、輸入又は販売その他の事業活動を行う事業者をいう。

五 生産者 食品関連事業者のうち、農林水産物を生産し、又は採取する者及びこれらの者で構成される団体をいう。

六 特定事業者 次に掲げる食品関連事業者及び団体であって、県の区域内に事業所、事務所その他の事業に係る施設又は場所を有するものをいう。

イ 食品等を生産し、採取し、製造し、輸入し、又は加工することを営む者

ロ 食品等を販売することを営む者であって、規則で定めるもの

ハ イに掲げる者により構成される団体

(基本理念)

第三条 食の安全・安心の確保は、このために必要な措置が県民の健康の保護が最も重要であるという基本的認識の下に講ぜられることにより、行われなければならない。

2 食の安全・安心の確保は、県民、食品関連事業者、県等すべての関係者の相互理解、連携及び協働の下に、食品に対する県民の信頼が確保されることを旨として行われなければならない。

3 食の安全・安心の確保は、~~食品等の安全性を高めるための措置が講ぜられ、かつ、~~食品等に適正な表示が行われることにより、食品に対する県民の信頼

が形成されることを旨として行われなければならない。

- 4 食の安全・安心の確保は、食品等の生産から消費に至る一連の行程の各段階において、県民の健康への悪影響を未然に防止する観点から、科学的知見に基づき必要な措置が講ぜられることにより、行われなければならない。

(県の責務)

第四条 県は、**前条の基本理念(次条において「基本理念」という。)**にのっとり、食の安全・安心の確保に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(食品関連事業者の責務)

第五条 食品関連事業者は、**基本理念にのっとり**、自らが食品等の安全性及び信頼性の確保について第一義的責任を有する~~とのしていることを認識の下~~にも、関係法令を遵守して事業活動を行う責務を有する。

- 2 食品関連事業者は、**基本理念にのっとり**、その事業活動を行うに当たっては、県民の信頼を損なうことのないよう、食品等の安全性を確保するために必要な措置を食品等の生産から販売に至る一連の行程の各段階において適切に講ずる責務を有する。

- 3 食品関連事業者は、**基本理念にのっとり**、その事業活動を行うに当たっては、その事業活動に係る食品等に関する正確かつ適切な情報を提供することにより、食品等に対する県民の信頼を確保するよう努めなければならない。

- 4 食品関連事業者は、**基本理念にのっとり**、その事業活動に関し、県が実施する食の安全・安心の確保に関する施策に**積極的に**協力する責務を有する。

(県民の役割)

第六条 県民は、食の安全・安心の確保に関する知識と理解を深めるよう努めるものとする。

- 2 県民は、県が実施する食の安全・安心の確保に関する施策について意見を表明するよう努めることにより、食の安全・安心の確保に積極的な役割を果たすものとする。

- 3 県民は、県が実施する食の安全・安心の確保に関する施策について協力するよう努めるものとする。

(国等との連携)

第七条 県は、食の安全・安心の確保に関する施策の推進に当たっては、国又は他の地方公共団体との密接な連携を図るものとする。

- 2 県は、食の安全・安心の確保を図るため必要があると認めるときは、国に対し意見を述べ、必要な措置を講ずるよう求めるものとする。

(年次報告)

第八条 知事は、毎年、議会に、食の安全・安心の確保に関して実施した施策に関する報告を提出するとともに、これを公表しなければならない。

(財政上の措置)

第九条 県は、食の安全・安心の確保に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講じなければならない。

第二章 基本方針

(基本方針)

第十条 知事は、食の安全・安心の確保に関する施策を総合的に推進するため、食の安全・安心の確保に関する基本的な方針（以下「基本方針」という。）を定めなければならない。

2 基本方針においては、次に掲げる事項について定めるものとする。~~食の安全・安心の確保に関する施策を総合的に推進するための基本的な事項その他の必要な事項について定めるものとする。~~

一 食の安全・安心の確保に関する基本的方向

二 食の安全・安心の確保のために実施すべき施策

三 前二号に掲げるもののほか、食の安全・安心の確保に関する重要事項

3 知事は、基本方針を定めるに当たっては、あらかじめ、三重県食の安全・安心確保のための検討会議に意見を求めるとともに、広く県民等からの意見を聴かなければならない。

4 知事は、基本方針を定めたときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

5 前二項の規定は、基本方針の変更について準用する。

第三章 基本的施策

第一節 安全・安心の推進

(体制の整備)

第十一条 県は、食の安全・安心の確保に関する施策を総合的に推進するために必要な体制の整備を図るものとする。

2 県は、食品を摂取することにより人の健康に係る重大な被害が生ずることを防止するため、当該被害が生じ、又は生じるおそれがある緊急の事態への対処及び当該事態の発生防止に関する体制の整備その他の必要な措置を講じなければならない。

(監視、指導等体制の強化)

第十二条 県は、食の安全・安心を確保するため、食品等の生産から販売に至る一連の行程の各必要な段階において、~~＝貫した~~監視、指導、検査その他の必要な措置を講ずるものとする。

(調査研究の推進)

第十三条 県は、食の安全・安心の確保に関する施策を科学的知見に基づき効果的に推進実施するため、必要な調査及び研究を行うとともに、並びにその成果の普及啓発を行うものとする。

(人材の育成)

第十四条 県は、食の安全・安心の確保に関する専門的な知識を有する人材を育成するために必要な措置を講ずるものとする。

(食育の推進による知識の普及啓発)

第十五条 県は、県民が食の安全・安心の確保についての理解と関心を深めることができるよう、家庭、地域、学校その他の様々な場における食育

の取組をの推進を通じて、食の安全・安心の確保に関する知識の普及啓発を行うものとする。

(適正表示の推進)

第十六条 県は、食品等の表示に対する県民の信頼を確保するため、食品等の表示が適正に実施されるよう監視及び指導を行うとともに、食品等の表示に係る制度の普及啓発その他の必要な措置を講ずるものとする。

(自主基準の設定及び公開の促進)

第十七条 県は、食品関連事業者自らが提供する食品等に係る食の安全・安心に関する基準の設定及び公開を促進するために必要な措置を講ずるものとする。

(認証制度の推進)

第十八条 県は、~~一定の基準以上の品質を具備する、又は一定の要件、又は基準に基づいて生産された県産食品~~県内で生産された農林水産物等及びそれらを主原料として使用して県内で生産された食品の認証制度等を積極的に推進し、県民に信頼される安全・安心な食品の生産、流通及び消費地産地消の拡大を図るものとする。

第二節 県民の参加等

(相互理解の推進増進等)

第十九条 県は、~~県民、食品関連事業者及び県が~~の相互に理解を深め増進し、信頼関係を構築できるようにするため、意見交換、相互交流の機会の確保その他の必要な措置を講ずるものとする。

(関係者との協働)

第二十条 県は、食の安全・安心を確保するため、県民及び食品関連事業者並びにこれらの者により構成される団体と協働して、施策を推進するものとする。

(施策の提案)

第二十一条 県民及び食品関連事業者は、食の安全・安心の確保に関する施策の策定、改善又は廃止について、知事に提案することができる。

2 知事は、前項の規定による提案が行われたときは、必要な検討を行い、当該提案をした者にその結果を通知するものとする。

3 前二項に定めるもののほか、第一項の規定による提案に関し必要な事項は、規則で定める。

(危害情報等の申出)

第二十二条 県民は、~~健康に危害を及ぼし、~~食の安全・安心を損ない、又は~~損なう~~おそれのある食品等についての情報を入手した場合は、必要な措置が講ぜられるよう、県に対して申出をすることができる。

2 県は、前項に規定する申出の内容に相当な理由があると認めるときは、速やかに、関係法令に基づく必要な措置を講ずるものとする。

第四章 安全・安心の確保に関する措置

第一節 出荷・販売の禁止

~~(安全な農林水産物の供給)~~

~~第二十三條 食品関連事業者は、安全な農林水産物を供給するため、農薬、肥料、飼料及び動物用医薬品(次項において「農薬等」という。)の使用方法について関係法令で定める基準に従い、農林水産物を生産しなければならない。~~

~~2 県は、食品関連事業者による安全な農林水産物の供給に資するため、農薬等の使用に関して関係法令で定められた基準に係る指導及び監督を行うとともに、情報の提供その他の必要な技術的支援を講ずるものとする。~~

~~(出荷・販売の禁止)~~

~~第二十四條 食品関連事業者生産者は、食品衛生法第十一条第二項又は第三項の規定により販売等が禁止された農林水産物を出荷してはならない。~~

~~2 食品関連事業者生産者は、食品衛生法第十一条第二項又は第三項の規定により販売等が禁止された農林水産物に該当する疑いがあるものは、その安全性が確認された後でなければ、これを出荷し、又は販売してはならない。~~

第二節 自主回収の報告

~~(自主回収の報告)~~

~~第二十五條 食品関連事業者(県内に事業所、事務所その他の事業に係る施設又は場所を有する者であって、別に規則で定めるものに限る。)特定事業者は、その生産し、採取し、製造し、輸入し、加工し、又は販売した食品等の自主的な回収に着手した場合(法令に基づく命令又は書面による回収の指導を受けて回収に着手したときを除く。)であって、当該食品等が次のいずれかに該当するときは、速やかに、その旨を規則で定めるところにより知事に報告しなければならない。~~

~~一 食品衛生法の規定に違反し、又は違反する疑いがある食品等(同法第十九条第二項の規定に違反し、又は違反する疑いがあるもの(規則で定めるものを除く。))を除く。~~

~~二 前号に掲げるもののほか、健康への悪影響の未然防止又は食品等への信頼性の確保の観点から規則で定める食品等~~

~~2 食品関連事業者(県内に事業所、事務所その他の事業に係る施設又は場所を有する者であって、別に規則で定めるものに限る。)特定事業者(第二条第六号口を除く。)のうち、自ら生産し、採取し、製造し、輸入し、又は加工した食品等を、当該食品等を生産し、採取し、製造し、輸入し、又は加工した施設又は場所において、他の者を経ることなく直接県民に販売することを主として営む者については、前項の規定は、適用しない。~~

~~(回収に係る指導等)~~

~~第二十六條 知事は、前条第一項の規定による報告に係る回収の措置が、人の健康に係る被害の発生健康への悪影響の発生又はその拡大を防止する上で適切でないとき、当該報告を行った食品関連事業者特定事業者に対し、回収の措置の変更に係る指導その他の必要な指導を行うことができる。~~

- 2 知事は、前条第一項の規定による報告を受けたときは、速やかに当該報告に係る食品等が流通する地域を管轄する地方公共団体の長に対し、当該報告に係る情報を提供するものとする。
- 3 前条第一項の規定による報告を行った食品関連事業者**特定事業者**は、当該報告に係る回収を終了したときは、速やかにその旨を知事に報告しなければならない。
- 4 知事は、前条第一項又は前項の規定による報告を受けたときは、速やかに、県民に対し当該報告の内容に係る情報を提供するものとする。~~ただし、自主的な回収に着手した食品等が次のいずれかに該当する場合には、この限りでない。~~

~~＝ 県の区域内に流通していないことが明らかな場合~~

~~＝ 県民に販売されていないことが明らかな場合~~

第五章 立入調査及び措置勧告

(立入調査等)

~~第二十七~~二十六条 知事は、**第二十三条の規定の施行に必要な限度において、食品関連事業者が第二十四条の規定に違反して農林水産物を出荷し、若しくは販売したとき、又はそのおそれがあると認めるときは、当該食品関連事業者生産者その他の関係者から**対して報告を求め、又は**その当該職員に、これらのものこれらの者の**事業所、事務所その他の事業に係る施設若しくは場所に立ち入り、食品等、帳簿書類その他の物件を調査させ、**関係者に質問をさせ、又は試験の用に供するの**に若しくは検査を行うために必要な限度において、これらの物件の提出を求めさせることができる。

- 2 前項の規定により立入調査を行う職員は、その身分を示す証明書を携帯し、関係者に提示しなければならない。
- 3 第一項の規定による権限は、犯罪捜査のために認められたものと解してはならない。

(措置勧告)

~~第二十八~~二十七条 知事は、食品関連事業者**生産者**が次のいずれかに該当するときは、当該食品関連事業者**生産者**に対し、必要な措置を勧告することができる。

一 ~~第二十四~~第二十三条の規定に違反して農林水産物を出荷し、又は販売したとき。

二 前条第一項の規定による報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又は同規定による調査若しくは物件の提出を拒み、妨げ、若しくは忌避したとき。

- 2 知事は、前項の規定による勧告をしようとするときは、当該勧告に係る食品関連事業者**生産者**に対し、あらかじめその旨を通知し、釈明及び証拠の提出の機会を与えるものとする。ただし、公益上緊急を要するときは、この限りでない。
- 3 知事は、第一項の規定による勧告をした場合は、その旨及び当該勧告の内容等を公表することができる。

第五十六章 三重県食の安全・安心確保のための検討会議附属機関

(設置及び所掌事務等)

~~第三十九~~二十八条 食の安全・安心の確保に関する施策を調査審議するため、知事の附属機関として、三重県食の安全・安心確保のための検討会議(以下「検討会議」という。)を置く。

2 検討会議は、次に掲げる事項についてを調査審議する。

一 ~~基本方針に関する事項こと。~~

二 食の安全・安心の確保に関する施策に関する事項こと。

三 前二号に掲げるもののほか、知事が必要と認める事項

3 検討会議は、前項に規定する事項に関し、知事に意見を述べることができる。

(組織等)

~~第三十九~~二十九条 検討会議は、委員十人以内で組織する。

2 前項の場合において、男女のいずれか一方の委員の数は、委員の総数の十分の四未満とならないものとする。ただし、知事がやむを得ない事情があると認めた場合は、この限りでない。

~~三~~3 委員は、次に掲げる者のうちから、知事が任命する。

一 消費者

二 食品関連事業者

三 学識経験を有する者

四 前三号に掲げる者のほか、知事が必要と認める者

4 委員の任期は2年とする。

5 委員は再任されることができる。

6 前各項に定めるもののほか、検討会議の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

第六十七章 雑則

(規則への委任)

~~第三十九~~三十条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成 年 月 日から施行する。ただし、第四章及び第五章の規定は、平成××年××月××日から施行する。

(経過措置)

2 第五章の規定は、平成 年 月 日以前に出荷され、又は販売された農林水産物については、適用しない。

3 この条例の施行の際現に策定されている三重県食の安全・安心確保基本方針は、第十条の基本方針とする。

(見直し)

~~三~~4 この条例の規定については、食の安全・安心の確保に関する国の施策等

の状況及びこの条例の施行の状況を勘案し、必要があると認められるときは検討が加えられ、その結果に基づいて必要な措置が講ぜられるものとする。

「三重県食の安全・安心の確保に関する条例案」骨子案及び素案の対比並びに理由一覧

	骨子案	条例案(素案)	理由
前文	本県は、古には、美し国、御食国と称され、豊かな食料を生み出した地であった。我々は、現在においても、また、将来にわたってもかかありたいと考える。	(削除)	委員及び関係団体から、前文はできるだけ平易な表現を用い、簡素なものとするべき、国際的な物流の拡大や食品製造技術の開発はマイナス面ばかりではないとの色々な意見があり、それらを踏まえ修正を行ったもの。
	人々の日々の糧であるが	我々が日々の生活を送る上で基本となるものであり	同上
	現在、我々は、経済の発展や科学技術の発達によって豊かな食生活を享受できるようになったが、その一方で、国際的な物流の拡大や新たな食品製造技術の開発は、環境汚染物質による食品汚染の可能性、食品への有害物質の残留の可能性など、新たな不安を生じさせていることも否めない	近年、製造技術の高度化や輸入食品等の増加等により、我々の食生活を取り巻く環境は大きく変化しており、食に対する県民の関心が高まっているところである	同上
	食品の安全性及び信頼性の確保	食の安全・安心を確保	字句の整理を行ったもの。
	本県において、食品の安全性及び信頼性を損なう事件が発生し、消費者である県民に、食に対する不安感や不信感を抱かせた	本県のほか、各地において食に関する様々な問題が発生したことから、食の安全・安心の確保に関する県民の要請は一段と強まってきている	全国各地で発生した食に関する事件又は問題により、食の安全・安心の確保に関する県民の要請が強まっていると確信するという委員の立案事実の認識に基づいて整理を行ったもの。
	(挿入)	が、その取組に当たっては、食品等の監視、食品関連事業者への指導の強化等を行うのみならず、地産地消等の推進を通じ食品関連事業者と県民との間の信頼関係を構築し、	委員及び関係団体から、地産地消にも触れるべき等の色々な意見があり、それらを踏まえ修正を行ったもの。
	に寄与するものである	を図っていくことが重要である	字句の整理を行ったもの。
(定義) 第二条	この条例における用語	この条例において、次の各号に掲げる用語	字句の整理を行ったもの。
	(挿入)	一 食の安全・安心 食品の安全性及び食品に対する県民の信頼をいう	前文においても用語を用いるため、条例全体を通じて用語の意義を定める定義に規定したもの。
	(挿入)	五 生産者 食品関連事業者のうち、農林水産物を生産し、又は採取する者及びこれらの者で構成される団体をいう 六 特定事業者 次に掲げる食品関連事業者及び団体であって、県の区域内に事業所、事務所その他の事業に係る施設又は場所を有するものをいう。 イ 食品等を生産し、採取し、製造し、輸入し、又は加工す	「出荷・販売の禁止」等の規定により規制に服することとなる者を「生産者」、「自主回収報告」をなすべき者を「特定事業者」として定義を行い、一定の行為を禁止する、又は一定の義務を課する規定における用語の意義を明確化したもの。

	骨子案	条例案(素案)	理由
		<p>ることを営む者</p> <p>ロ 食品等を販売することを営む者であって、規則で定めるもの</p> <p>ハ イに掲げる者により構成される団体</p>	
(基本理念) 第三条	食品等の安全性を高めるための措置が講ぜられ、かつ	(削除)	関係団体から、記述の意味がわかりづらいとの意見があり、第1項、第4項との関係からも不要な記述と考え、削除したもの。
(県の責務) 第四条	(挿入)	前条の基本理念(次条において「基本理念」という。)にのっとり	基本理念の規定を掲げている場合における責務に関する規定の通例にならい、修正を行ったもの。
(食品関連 滋養者の 責務) 第五条	(挿入)	基本理念にのっとり	基本理念の規定を掲げている場合における責務に関する規定の通例にならい、修正を行ったもの。
	有していることを認識し	有するとの認識の下に	字句の整理を行ったもの
	積極的に	(削除)	食品関連事業者の協力の範囲を明確にしてほしいとの関係団体からの意見及び食品安全基本法の規定を踏まえ、修正を行ったもの
(基本方針) 第十条	基本方針は、食の安全・安心の確保に関する施策を総合的に推進するための基本的な事項その他必要な事項について定めるものとする	<p>基本方針においては、次に掲げる事項について定めるものとする。</p> <p>一 食の安全・安心の確保に関する基本的方向</p> <p>二 食の安全・安心の確保のために実施すべき施策</p> <p>三 前二号に掲げるもののほか、食の安全・安心の確保に関する重要事項</p>	条文化に当たり、基本方針において定める事項及びその手続きを明確化したもの。
	検討会議(仮称)の意見を聴かなければならない	検討会議に意見を求めるとともに、広く県民等からの意見を聴かなければならない	同上
	(挿入)	<p>4 知事は、基本方針を定めるときは、遅滞なく、これを公表しなければならない</p> <p>5 前二項の規定は、基本方針の変更について準用する</p>	同上
第十二条	(監視指導体制の強化)	(監視、指導等)	条文の内容の修正を踏まえ、見出しの修正を行ったもの。
	各段階	必要な段階	食品等の生産から販売までの、必要な段階において県が指導等を行うのが適切との委員の認識に基づき修正を行ったもの。
	一貫した	(削除)	食品等の生産から販売に至る一連の行程において指導等関与する機関は異なることから、必ずしも一貫した指導等ができるとは限らないとの委員の意見に基づき修正を行ったもの。
(調査研究の推進) 第十三条	(挿入)	科学的知見に基づき	字句の整理を行ったもの。
	推進	実施	字句の整理を行ったもの。
	を行うとともに	並びに	字句の整理を行ったもの。

	骨子案	条例案(素案)	理由
(食育の推進による知識の普及啓発) 第十五条	に対する理解	の確保についての理解と関心	字句の整理を行ったもの。
	食育の取組を推進し (挿入)	取組の推進を通じて の確保	字句の整理を行ったもの。 字句の整理を行ったもの。
第十八条	(認証制度)	(認証制度の推進)	字句の整理を行うとともに、条文の内容を適切に表現するため見出しの修正を行ったもの。
	一定の基準以上の品質を具備する、又は	(削除)	字句の整理を行ったもの。
	生産された県産食品	県内で生産された農林水産物等及びそれらを主原料として使用して県内で生産された食品	字句の整理を行うとともに、用語を正確に記述するため修正を行ったもの。
	地産地消	生産、流通及び消費	字句の整理を行うとともに、用語を正確に記述するため修正を行ったもの。
第十九条	相互理解の推進等	相互理解の増進等	条文の内容の修正を踏まえ、見出しの修正を行ったもの。
	県が、相互に理解を深め	県の相互理解を増進し	字句の整理を行ったもの。
(危険情報等の申出) 第二十二 条	健康に危害を及ぼし、又は及ぼすおそれのある	食の安全・安心を損ない、又は損なうおそれのある	危害情報には、表示など食品に対する県民の信頼に関する情報も含まれるため、修正を行ったもの。
(安全な農林水産物の供給) 第二十三 条	(1) 食品関連事業者は、安全な農林水産物を供給するため、農薬、肥料、飼料及び動物用医薬品(以下(2)において「農薬等」という。)の使用方法について関係法令で定める基準に従い、農林水産物を生産しなければならない。 (2) 県は、食品関連事業者による安全な農林水産物の供給に資するため、農薬等の使用に関して関係法令で定められた基準に係る指導及び監督を行うとともに、情報の提供その他の必要な技術的支援を講ずるものとする。	(削除)	食品等の安全性に関する食品関連事業者の責務については第5条において規定し、また、県による食の安全・安心を確保するための監視、指導等について第12条において規定しているため、削除したもの。
(出荷・販売の禁止) 第二十三 条	食品関連事業者	生産者	第二条における食品関連事業者、生産者、特定事業者の用語の定義に合わせて、用語の使用を整理するもの。
(自主回収の報告) 第二十四 条	食品関連事業者(県内に事業所、事務所その他の事業に係る施設又は場所を有する者であって、別に規則で定めるものに限る。)	特定事業者	同上
	(挿入)	(法令に基づく命令又は書面による回収の指導を受けて回	法令と条例の適用の整理を行ったもの。

	骨子案	条例案(素案)	理由
		収に着手したときを除く。)	
	違反し、又は違反する疑いがある	違反する	食品衛生法に違反する疑いがあるものについては、結果的に違反する事実が無かったものについても、情報の提供を行うことにより、いわゆる風評の流布を助長してしまう可能性が生じるのではないかと疑念が残るため、削除したもの。
(回収に係る指導等) 第二十五条	人の健康に係る被害の発生	健康への悪影響の発生	字句の整理を行ったもの。
	ただし、自主的な回収に着手した食品等が次のいずれかに該当する場合については、この限りでない。 一 県の区域内に流通していないことが明らかな場合 二 県民に販売されていないことが明らかな場合	(削除)	食品等の流通形態や通勤、通学等の地理的範囲や旅行等による一時的滞在の発生を勘案し、「明らか」とあるという判定を行うことが実際上難しいものであることから、削除したもの。
(立入調査等) 第二十六条	食品関連事業者が第二十四条の規定に違反して農林水産物を出荷し、若しくは販売したとき、又はそのおそれがあると認めるときは	第二十三条の規定の施行に必要な限度において	立入調査の発動を「第二十三条の規定の施行に必要な限度において」に明確化し、また、通例にならい、手続等の規定を設けたもの。
	又は試験の用に供するのに	関係者に質問をさせ、又は試験の用に供するのに	字句の整理を行ったもの。
	(挿入)	2 前項の規定により立入調査を行う職員は、その身分を示す証明書を携帯し、関係者に提示しなければならない。 3 第一項の規定による権限は、犯罪捜査のために認められたものと解してはならない。	通例にならい、手続等の規定を設けたもの。
第六章	附属機関	三重県食の安全・安心確保のための検討会	条文化に当たり、検討会の名称、概要等を規定したもの。
(設置及び所掌事務等) 第二十八条	(挿入)	食の安全・安心の確保に関する施策を調査審議するため	条文化に当たり、検討会の名称、概要等を規定したもの。
	(挿入)	三 前二号に掲げるもののほか、知事が必要と認める事項	通例にならい、手続等の規定を設けたもの。
(組織等) 第十九条	(挿入)	2 前項の場合において、男女のいずれか一方の委員の数は、委員の総数の十分の四未満とならないものとする。ただし、知事がやむを得ない事情があると認めた場合は、この限りでない	「男女共同参画の視点で進める三重県附属機関等への委員選任基本要綱」を踏まえ、また他の条例の規定振りに倣い、委員の男女比の規定を設けるもの。
	(挿入)	四 前三号に掲げる者のほか、知事が必要と認める者	通例にならい、手続等の規定を設けたもの。

	骨子案	条例案(素案)	理由
	(挿入)	4 委員の任期は2年とする 5 委員は再任されることができる 6 前各項に定めるもののほか、検討会議の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める	通例にならい、手続等の規定を設けたもの。
第三十条	(委任)	(規則への委任)	条文の内容を適切に表現するため見出しの修正を行ったもの。
附則			
(施行期日)	(挿入)	ただし、第四章及び第五章の規定は、平成××年××月××日から施行する	第4章「安全・安心の確保」及び第5章「立入調査及び措置勧告」の規定について、周知期間を設けるため、ただし書を設けたもの。
(経過措置)	(挿入)	2 第五章の規定は、平成××年××月××日以前に出荷され、又は販売された農林水産物については、適用しない 3 この条例の施行の際現に策定されている三重県食の安全・安心確保基本方針は、第十条の基本方針とする	第五章及び第十条の規定に関し、経過措置を設けたもの。

三重県食の安全・安心の確保に関する条例案（案）

目次

前文

第一章 総則（第一条 - 第九条）

第二章 基本方針（第十条）

第三章 基本的施策

第一節 安全・安心の推進（第十一条 - 第十八条）

第二節 県民の参加等（第十九条 - 第二十二条）

第四章 安全・安心の確保（第二十三条・第二十四条）

第五章 三重県食の安全・安心確保のための検討会議（第二十五条・第二十六
六条）

第六章 雑則（第二十七条）

附則

本県は、~~古には、^{いにしえ}美し国、^{うましくに みけつくに}御食国と称され、豊かな食料を生み出した地であ~~
~~った。我々は、現在においても、また、将来にわたってもかくありたいと考~~
~~える。~~

食は、~~人々の日々の糧であるが、~~**我々が日々の生活を送る上で基本となるもの**であり、健康で豊かな生活を送るためにはその安全と安心が確保されなければならない。

~~現在、我々は、近年、製造技術の高度化や輸入食品等の増加等により、我々の食生活を取り巻く環境は大きく変化しており、食に対する県民の関心が高まっているところである。経済の発展や科学技術の発達によって豊かな食生活を享受できるようになったが、その一方で、国際的な物流の拡大や新たな食品製造技術の開発は、環境汚染物質による食品汚染の可能性、食品への有害物質の残留の可能性など、新たな不安を生じさせていることも否めない。~~

国においては、~~食品の安全・安心性及び信頼性の確保の~~**を確保する**ために多くの法律が制定されているが、**本県のほか、各地において食に関する様々な問題が発生したこと**から、~~本県において、食の安全・安心の確保に関する県民の要請は一段と強まってきている。品の安全性及び信頼性を損なう事件が発生し、消費者である県民に、食に対する不安感や不信感を抱かせた。~~

このような状況において、~~本県における食の安全・安心品の安全性及び信頼性を確保していくことは、本県が取り組むべき喫緊の課題であるが、その取組に当たっては、食品等の監視、食品関連事業者への指導の強化等を行うのみならず、地産地消等の推進を通じ食品関連事業者と県民との間の信頼関係を構築し、とともに、安全・安心な県産食品の供給の拡大に寄与するものである。~~**を**
図っていくことが重要である。

ここに、食の安全・安心の確保に関する基本理念を明らかにしてその方向性を示し、食の安全・安心の確保に関する施策を総合的に推進するため、この条例を制定する。

第一章 総則

(目的)

第一条 この条例は、県民が豊かな食生活を通じて健康に暮らしていくためには食品の安全・~~安心性及び信頼性~~(以下「~~食の安全・安心~~」という。)を確保することが重要であることにかんがみ、食の安全・安心の確保に関し、基本理念を定め、並びに県及び食品関連事業者の責務並びに県民の役割を明らかにするとともに、施策の策定に係る基本的な方針を定めることにより、食の安全・安心の確保に関する施策を総合的に推進し、もって県民の健康の保護並びに県民に信頼される安全・安心な食品の供給及び消費の拡大に寄与することを目的とする。

(定義)

第二条 この条例において、次の各号に掲げるおける用語の意義は、当該各号に定めるところによる~~次のとおりとする。~~

- 一 **食の安全・安心** 食品の安全性及び食品に対する県民の信頼をいう。
- 二 食品 すべての飲食物(薬事法(昭和三十五年法律第百四十五号)に規定する医薬品及び医薬部外品を除く。)をいう。
- 三 食品等 食品並びに添加物(食品衛生法(昭和二十二年法律第二百三十三号)第四条第二項に規定する添加物をいう。)器具(同条第四項に規定する器具をいう。)容器包装(同条第五項に規定する容器包装をいう。)及び食品の原料又は材料として使用される農林水産物をいう。
- 四 食品関連事業者 食品等又は肥料、農薬、飼料、飼料添加物、動物用の医薬品その他食品の安全性に影響を及ぼすおそれがある農林漁業の生産資材の生産、輸入又は販売その他の事業活動を行う事業者をいう。
- 五 **特定事業者** 次に掲げる食品関連事業者及び団体であって、県の区域内に事業所、事務所その他の事業に係る施設又は場所を有するものをいう。
 - イ 食品等を生産し、採取し、製造し、輸入し、又は加工することを営む者
 - ロ 食品等を販売することを営む者であって、規則で定めるもの
- ハ イに掲げる者により構成される団体

(基本理念)

第三条 食の安全・安心の確保は、このために必要な措置が県民の健康の保護が最も重要であるという基本的認識の下に講ぜられることにより、行われなければならない。

- 2 食の安全・安心の確保は、県民、食品関連事業者、県等すべての関係者の相互理解、連携及び協働の下に、食品に対する県民の信頼が確保されることを旨として行われなければならない。
- 3 食の安全・安心の確保は、~~食品等の安全性を高めるための措置が講ぜられ、かつ、~~食品等に適正な表示が行われることにより、食品に対する県民の信頼が形成されることを旨として行われなければならない。
- 4 食の安全・安心の確保は、食品等の生産から消費に至る一連の行程の各段

階において、県民の健康への悪影響を未然に防止する観点から、科学的知見に基づき必要な措置が講ぜられることにより、行われなければならない。

(県の責務)

第四条 県は、**前条の基本理念(次条において「基本理念」という。)**にのっとり、食の安全・安心の確保に関する施策を総合的に策定し、及び実施する責務を有する。

(食品関連事業者の責務)

第五条 食品関連事業者は、**基本理念にのっとり**、自らが食品等の安全性及び信頼性の確保について第一義的責任を有する~~とのしていることを認識の下~~に、関係法令を遵守して事業活動を行う責務を有する。

2 食品関連事業者は、**基本理念にのっとり**、その事業活動を行うに当たっては、県民の信頼を損なうことのないよう、食品等の安全性を確保するために必要な措置を食品等の生産から販売に至る一連の行程の各段階において適切に講ずる責務を有する。

3 食品関連事業者は、**基本理念にのっとり**、その事業活動を行うに当たっては、その事業活動に係る食品等に関する正確かつ適切な情報を提供することにより、食品等に対する県民の信頼を確保するよう努めなければならない。

4 食品関連事業者は、**基本理念にのっとり**、その事業活動に関し、県が実施する食の安全・安心の確保に関する施策に積極的に協力する責務を有する。

(県民の役割)

第六条 県民は、食の安全・安心の確保に関する知識と理解を深めるよう努めるものとする。

2 県民は、県が実施する食の安全・安心の確保に関する施策について意見を表明するよう努めることによつて、食の安全・安心の確保に積極的な役割を果たすものとする。

3 県民は、県が実施する食の安全・安心の確保に関する施策について協力するよう努めるものとする。

(国等との連携)

第七条 県は、食の安全・安心の確保に関する施策の推進に当たっては、国又は他の地方公共団体との密接な連携を図るものとする。

2 県は、食の安全・安心の確保を図るため必要があると認めるときは、国に対し意見を述べ、必要な措置を講ずるよう求めるものとする。

(年次報告)

第八条 知事は、毎年、議会に、食の安全・安心の確保に関して実施した施策に関する報告を提出するとともに、これを公表しなければならない。

(財政上の措置)

第九条 県は、食の安全・安心の確保に関する施策を実施するため必要な財政上の措置その他の措置を講じなければならない。

第二章 基本方針

(基本方針)

第十条 知事は、食の安全・安心の確保に関する施策を総合的に推進するため、食の安全・安心の確保に関する基本的な方針（以下「基本方針」という。）を定めなければならない。

2 基本方針においては、次に掲げる事項について定めるものとする。~~食の安全・安心の確保に関する施策を総合的に推進するための基本的な事項その他の必要な事項について定めるものとする。~~

- 一 食の安全・安心の確保に関する基本的方向
- 二 食の安全・安心の確保のために実施すべき施策
- 三 前二号に掲げるもののほか、食の安全・安心の確保に関する重要事項

3 知事は、基本方針を定めるに当たっては、あらかじめ、三重県食の安全・安心確保のための検討会議に意見を求めるとともに、広く県民等からの意見を聴かななければならない。

4 知事は、基本方針を定めたときは、遅滞なく、これを公表しなければならない。

5 前二項の規定は、基本方針の変更について準用する。

第三章 基本的施策

第一節 安全・安心の推進

（体制の整備）

第十一条 県は、食の安全・安心の確保に関する施策を総合的に推進するために必要な体制の整備を図るものとする。

2 県は、食品を摂取することにより人の健康に係る重大な被害が生ずることを防止するため、当該被害が生じ、又は生じるおそれがある緊急の事態への対処及び当該事態の発生防止に関する体制の整備その他の必要な措置を講じなければならない。

（監視、指導等体制の強化）

第十二条 県は、食の安全・安心を確保するため、食品等の生産から販売に至る一連の行程の各必要な段階において、~~＝貫した~~監視、指導、検査その他の必要な措置を講ずるものとする。

（調査研究の推進）

第十三条 県は、食の安全・安心の確保に関する施策を科学的知見に基づき効果的に推進実施するため、必要な調査及び研究を行うとともに、並びにその成果の普及啓発を行うものとする。

（人材の育成）

第十四条 県は、食の安全・安心の確保に関する専門的な知識を有する人材を育成するために必要な措置を講ずるものとする。

（食育の推進による知識の普及啓発）

第十五条 県は、県民が食の安全・安心の確保についての~~対する~~理解と関心を深めることができるよう、家庭、地域、学校その他の様々な場における食育の取組をの推進を通じて、食の安全・安心の確保に関する知識の普及啓発を行うものとする。

(適正表示の推進)

第十六条 県は、食品等の表示に対する県民の信頼を確保するため、食品等の表示が適正に実施されるよう監視及び指導を行うとともに、食品等の表示に係る制度の普及啓発その他の必要な措置を講ずるものとする。

(自主基準の設定及び公開の促進)

第十七条 県は、食品関連事業者自らが提供する食品等に係る食の安全・安心に関する基準の設定及び公開を促進するために必要な措置を講ずるものとする。

(認証制度の推進)

第十八条 県は、~~一定の基準以上の品質を具備する、又は一定の要件~~又は基準に基づいて生産された県産食品**県内で生産された農林水産物等及びそれらを主原料として使用して県内で生産された食品の認証制度等**を積極的に推進し、県民に信頼される安全・安心な食品の**生産、流通及び消費**地産地消の拡大を図るものとする。

第二節 県民の参加等

(相互理解の推進**増進**等)

第十九条 県は、県民、食品関連事業者及び**県が**~~の相互に理解を深め~~**増進し**、信頼関係を構築できるようにするため、意見交換、相互交流の機会の確保その他の必要な措置を講ずるものとする。

(関係者との協働)

第二十条 県は、食の安全・安心を確保するため、県民及び食品関連事業者並びにこれらの者により構成される団体と協働して、施策を推進するものとする。

(施策の提案)

第二十一条 県民及び食品関連事業者は、食の安全・安心の確保に関する施策の策定、改善又は廃止について、知事に提案することができる。

2 知事は、前項の規定による提案が行われたときは、必要な検討を行い、当該提案をした者にその結果を通知するものとする。

3 前二項に定めるもののほか、第一項の規定による提案に関し必要な事項は、規則で定める。

(危害情報**等**の申出)

第二十二条 県民は、~~健康に危害を及ぼし、~~**食の安全・安心を損ない**、又は**損なう**おそれのある食品等についての情報を入手した場合は、必要な措置が講ぜられるよう、県に対して申出をすることができる。

2 県は、前項に規定する申出の内容に相当な理由があると認めるときは、速やかに、関係法令に基づく必要な措置を講ずるものとする。

第四章 安全・安心の確保**に関する措置**

~~(安全な農林水産物の供給)~~

~~第二十三条 食品関連事業者は、安全な農林水産物を供給するため、農薬、肥料、飼料及び動物用医薬品（次項において「農薬等」という。）の使用方法~~

~~について関係法令で定める基準に従い、農林水産物を生産しなければならない。~~

- ~~2 県は、食品関連事業者による安全な農林水産物の供給に資するため、農薬等の使用に関して関係法令で定められた基準に係る指導及び監督を行うとともに、情報の提供その他の必要な技術的支援を講ずるものとする。~~
~~(出荷・販売の禁止)~~

~~第二十四条 食品関連事業者は、食品衛生法第十一条第二項又は第三項の規定により販売等が禁止された農林水産物を出荷してはならない。~~

- ~~2 食品関連事業者は、食品衛生法第十一条第二項又は第三項の規定により販売等が禁止された農林水産物に該当する疑いがあるものは、その安全性が確認された後でなければ、これを出荷し、又は販売してはならない。~~

~~(自主回収の報告)~~

~~第二十五条 食品関連事業者(県内に事業所、事務所その他の事業に係る施設又は場所を有する者であって、別に規則で定めるものに限る。)特定事業者は、その生産し、採取し、製造し、輸入し、加工し、又は販売した食品等の自主的な回収に着手した場合(法令に基づく命令又は書面による回収の指導を受けて回収に着手したときを除く。)であって、当該食品等が次のいずれかに該当するときは、速やかに、その旨を規則で定めるところにより知事に報告しなければならない。~~

~~一 食品衛生法の規定に違反し、又は違反する疑いがある食品等(同法第十九条第二項の規定に違反し、又は違反する疑いがあるもの(規則で定めるものを除く。))を除く。~~

~~二 前号に掲げるもののほか、健康への悪影響の未然防止又は食品等への信頼性の確保の観点から規則で定める食品等~~

- ~~2 食品関連事業者(県内に事業所、事務所その他の事業に係る施設又は場所を有する者であって、別に規則で定めるものに限る。)特定事業者(第二条第五号口を除く。)のうち、自ら生産し、採取し、製造し、輸入し、又は加工した食品等を、当該食品等を生産し、採取し、製造し、輸入し、又は加工した施設又は場所において、他の者を経ることなく直接県民に販売することを主として営む者については、前項の規定は、適用しない。~~

~~(回収に係る指導等)~~

~~第二十六条 知事は、前条第一項の規定による報告に係る回収の措置が、~~人の健康に係る被害の発生~~健康への悪影響の発生又はその拡大を防止する上で適切でないとき、当該報告を行った食品関連事業者特定事業者に対し、回収の措置の変更に係る指導その他の必要な指導を行うことができる。~~

- ~~2 知事は、前条第一項の規定による報告を受けたときは、速やかに当該報告に係る食品等が流通する地域を管轄する地方公共団体の長に対し、当該報告に係る情報を提供するものとする。~~

~~3 2 前条第一項の規定による報告を行った食品関連事業者特定事業者は、当~~

該報告に係る回収を終了したときは、速やかにその旨を知事に報告しなければならない。

~~4 知事は、前条第一項又は前項の規定による報告を受けたときは、速やかに、県民に対し当該報告の内容に係る情報を提供するものとする。ただし、自主的な回収に着手した食品等が次のいずれかに該当する場合については、この限りでない。~~

~~＝ 県の区域内に流通していないことが明らかな場合~~

~~＝ 県民に販売されていないことが明らかな場合~~

~~(立入調査)~~

~~第二十七条 知事は、食品関連事業者が第二十四条の規定に違反して農林水産物を出荷し、若しくは販売したとき、又はそのおそれがあると認めるときは、当該食品関連事業者その他の関係者から報告を求め、又はその職員に、それらのものの事業所、事務所その他の事業に係る施設若しくは場所に立ち入り、食品等、帳簿書類その他の物件を調査させ、又は試験若しくは検査を行うために必要な限度において、これらの物件の提出を求めさせることができる。~~

~~(措置勧告)~~

~~第二十八条 知事は、食品関連事業者が次のいずれかに該当するときは、当該食品関連事業者に対し、必要な措置を勧告することができる。~~

~~＝ 第二十四条の規定に違反して農林水産物を出荷し、又は販売したとき。~~

~~＝ 前条第一項の規定による報告をせず、若しくは虚偽の報告をし、又は同規定による調査若しくは物件の提出を拒み、妨げ、若しくは忌避したとき。~~

~~2 知事は、前項の規定による勧告をしようとするときは、当該勧告に係る食品関連事業者に対し、あらかじめその旨を通知し、釈明及び証拠の提出の機会を与えるものとする。ただし、公益上緊急を要するときは、この限りでない。~~

~~3 知事は、第一項の規定による勧告をした場合は、その旨及び当該勧告の内容等を公表することができる。~~

第五章 三重県食の安全・安心確保のための検討会議附属機関

(設置及び所掌事務等)

~~第二十九~~**第二十五条 食の安全・安心の確保に関する施策を調査審議するため、知事の附属機関として、三重県食の安全・安心確保のための検討会議（以下「検討会議」という。）を置く。**

2 検討会議は、次に掲げる事項についてを調査審議する。

一 基本方針に関する事項~~こと。~~

二 食の安全・安心の確保に関する施策に関する事項~~こと。~~

三 前二号に掲げるもののほか、知事が必要と認める事項

3 検討会議は、前項に規定する事項に関し、知事に意見を述べることができる。

(組織等)

~~第三十~~**第二十六条 検討会議は、委員十人以内で組織する。**

2 前項の場合において、男女のいずれか一方の委員の数は、委員の総数の十分の四未満とならないものとする。ただし、知事がやむを得ない事情があると認めた場合は、この限りでない。

⇒3 委員は、次に掲げる者のうちから、知事が任命する。

一 消費者

二 食品関連事業者

三 学識経験を有する者

四 前三号に掲げる者のほか、知事が必要と認める者

4 委員の任期は2年とする。

5 委員は再任されることができる。

6 前各項に定めるもののほか、検討会議の組織及び運営に関し必要な事項は、規則で定める。

第六章 雑則

(規則への委任)

~~第三十~~二十七条 この条例に定めるもののほか、この条例の施行に関し必要な事項は、規則で定める。

附 則

(施行期日)

1 この条例は、平成 年 月 日から施行する。ただし、第四章の規定は、平成××年××月××日から施行する。

(経過措置)

2 この条例の施行の際現に策定されている三重県食の安全・安心確保基本方針は、第十条の基本方針とする。

(見直し)

⇒3 この条例の規定については、食の安全・安心の確保に関する国の施策等の状況及びこの条例の施行の状況を勘案し、必要があると認められるときは検討が加えられ、その結果に基づいて必要な措置が講ぜられるものとする。